

明治・大正

江戸時代末から製糸業が盛んな前橋でしたが、明治時代に入り我が国初の機械製糸工場が設立され発展を遂げます。県令（現在の知事）・榎取素彦や初代市長となった下村善太郎らの尽力で県庁が誘致され、明治25年に前橋市が誕生。電灯や電話、鉄道などの整備が進み市の経済力が進展するにつれ、街がにぎわっていきました。



① 明治時代の市役所です。市制施行当初は旧町役場を使用していました。にぎわう街の光景。現在の住吉町二丁目あたりに芝居小屋がありました。製糸工場に働く人の憩いの場です。



市制施行 120 周年

みなで お祝いして

未来へ新しい歩みを

昭和前期

昭和4年の世界大恐慌で生糸価格が暴落し、生糸だけでなく市の経済界を不況の嵐が。失業対策や困窮者救済、商工業振興を推進します。その後、陸軍特別演習などが行われ、戦時色が強くなると米穀類だけでなく砂糖や塩も配給制に。米軍機の空襲で市街地が焼け野原となり、ついには終戦を迎えました。

① 上毛電鉄の中央前橋駅・西桐生駅間が開通したときの様子です。紅白の幕と万国旗で前橋中央駅の駅舎が飾られ、「祝賀開通 食堂開店」の看板もあります。
② 米軍の空襲で焼け野原となってしまった市街地。土蔵など、焼け残った建物もありますが、木造住宅は跡形もなく消失しています。多くの死傷者を出し、市民生活は困窮を極めました。



ことし、前橋市が市制施行120周年を迎えました。みなでお祝いしたいと思います。水と緑に恵まれた、私たちのまち前橋は、群馬県の県都として発展を続けてきました。しかし、今日に至るまで常に順調な日々が続いてきた訳ではありません。

せん。先人たちのためまぬ努力と苦労があつてこそ、今の暮らしがあるのです。

今までの長い歴史を振り返りながら、前橋により一層の愛着を持って、未来への新たな一歩を踏み出しましょう。

問い合わせは 市政発信課 ☎898-6642

市制施行当時の前橋

面積 7.71km²
世帯 5,653世帯
人口 31,967人

現在の前橋

(平成24年9月末日現在)

面積 311.64km²
世帯 140,055世帯
人口 342,152人

明治(1892~1912)

25年 4月Ⅱ市制施行。全国で41番目、関東では東京、横浜、水戸に次いで4番目。5月Ⅱ下村善太郎が初代市長に就任。6月Ⅱ横山町の旧町役場を市役所に充てる。
26年 7月Ⅱ曲輪町に市役所新庁舎落成。
27年 前橋に初めて電灯が点く。
31年 前橋商議会を前橋商業会議所と改称。
32年 3月Ⅱ県内初の鉄橋となる利根橋が架橋。
35年 市内で公衆電話の利用開始。
36年 市内の電話業務開始。加入者は約500人。
39年 11月Ⅱ両毛線が国有化。
43年 10月Ⅱ前橋・渋川間に電車開通。
大正(1912~1926)
2年 市内各小学校の高等科を集めて久留万高等小学校とし、他は全て尋常小学校とする。
5年 4月Ⅱ市立図書館開館。市内

昭和(1926~1989)

3年 4月Ⅱ県庁舎新築落成。5月Ⅱ前橋商業会議所を前橋商工会議所と改称。10月Ⅱ上毛電鉄の前橋・桐生間が開通。
4年 3月Ⅱ上水道が完成。
6年 9月Ⅱ上越線が全線開通。
7年 10月Ⅱ市主催で初の防空演習。
9年 11月Ⅱ陸軍特別演習・地方御幸で天皇陛下が県庁に宿泊。防護団が組織され防空演習を実施。国防婦人会組織。
13年 非常時体制により市に担当課を新設。
14年 11月Ⅱ市内の電話が自動交換化。中島飛行機前橋工場が完成。
16年 4月Ⅱ小学校を国民学校と改称。11月Ⅱ市制施行50周年記念式典を挙行。
17年 4月Ⅱ市内で初の警戒警報・空襲警報発令。
20年 8月Ⅱ米軍機B29の空襲によって市街地の8割を消失。死者は535人、負傷者600人。